

激安健康診断の罠。エロ医者の乳がん チェックサービス

転職活動が終わって、ようやく次の会社が決まった。

私は今、26 歳で、新卒で入った会社を辞めて、転職活動をしていた。

新しい会社が決まり、入社前の健康診断に行くことになった。

会社から、病院の指定があるわけではなく、自分で病院を予約して、健康診断を行うという流れだった。

近くの病院にいくつか問い合わせをしてみて、1 つの病院だけ明らかに費用が低かった。

他のところは、1 万円近くかかるところが多かったけど、そこは、なんと千円でやってくれるということだった。

私は大丈夫なのかなとは思いつつも、そこで健康診断をやってもらうことにした。

その病院は近くの内科で、こじんまりとしている、個人病院だった。

私が予約した時間に行くと、中の待合所にいる患者は、わずか2,3 人くらいしかいなかった。それほど流行っている病院ではないのだろうなと思いつつも、別にそんなことは気にはならなかった。

私の名前が呼ばれて、私は診察室に入っていた。

診察室に入ると、50 代くらいの男の医者が中

にいた。

顔にシミがたくさんある、不健康そうな医者だった。

「はい、こんにちは。健康診断ですか」

その医者は独り言のようにそう言った。

「はい、入社前の健康診断です」

私はそう答えた。

医者は私が事前に渡していた、検査項目の紙を見ているようだった。

「ふむふむ。身長・体重・視力・聴力。血圧に胸部 X 線と心電図と血液検査に尿検査だね。よし、わかりました」

医者がまた独り言のようにぼそぼそと言った。

「あと、これに加えて、乳がんチェックサービスもやってあげますよ」

医者がそう言った。

「乳がんですか。いやそれは別にいいですけど」

私はそう言った。

「いやー、サービスだよ、サービス。遠慮しないで」

医者の男が私の方を見て、ニヤリといやらしい笑みをつくりながら言った。

私は不快感と嫌悪感と警戒感が一瞬にして最大になった。

「あのホントに大丈夫です。書いてある項目だけやっていただいたら」

私はそう言った。

「うーん。そうですか」

医者は腕組みをしながらそう言った。

「そういうことでしたら、私のところではできないですね。他で健康診断をやってもらってください」

「はい？」

私はそう聞き返した。

「どういうことですか。健康診断やっていただけないんですか？」

「そうですね。医者である私の言うことを聞いていただけないのなら、他でやってもらうしかないですね。別に、どこの病院でもやっているところであれば、健康診断はできるので、そちらでやってもらってください。もうお帰りになって結構ですよ」

医者が突き放すように私に言ってきた。

私はイスに座ったまま、少し茫然としてしまった。

予想外の展開になった。

確かに、この医者はどこか怪しそうな雰囲気満載なので、別の病院でやってもらった方がいいと思った。

でも、入社の日が近付いていた。

今から、別の病院に健康診断の予約を取り直して、結果の書類をもらうとなると、さらに日数がかかってしまう。

入社前に、書類が用意できなくなる可能性が出てくる。

それに、ここはとにかく安かった。

千円という破格の価格だった。

そういった諸々のことを考えると、やっぱりこの病院で済ませるのがベストだと思い直した。

「すみません。わかりました。乳がんの検査もやってもらうかたちで、やっていただけないでしょうか」

私がそう言うと、医者はこちらに向き直った。

「ああ、そうですか。それじゃあ、予定通りやっていきましょうかね」

医者がそう言って、健康診断の準備を始めた。

「じゃあ、まずは胸の音聞いていきますね。胸を下着も外してくれますか？」

医者が身を乗り出しながらそう言った。

「あの、最近だと下着は外さないことが多いって聞いてきたんですけど。そのために、ブラトップで今日来ました。その上からやってもらえませんか？」

私がそう尋ねた。

「あのね。えっと、胸の音をちゃんと聞くためだからね。下着まできちんと外してもらえるかな。それに、心電図も X 線検査もやるんだから、私にはおっぱいは見られるよ。それに乳がんチェックもやるんだから。そんなこといちいち気にしたら駄目だよ。私だって医者なんだから、若い女の子のおっぱいなんて見慣れてるし。やっぱり別の病院でやってもらいますか？」

私は黙って少し考えたけど、やっぱりこの医者の言うとおりにするしかないと思った。

「わかりました。下着まで脱ぎます。このままやってください」

私は上着を上に入れて、その下の黒のブラトップも鎖骨のあたりまで、がばっと上に上げた。

医者 of 男の前でおっぱい丸出し状態になった。
でも、これはしょうがない。

今までだって、学校の健康診断のときとかに、
医者 of 前でおっぱいを見せたことは何度もあ
った。

「はい、じゃあ、聴いていきますね。大きく息を
吸ってー」

医者がそう言い、胸に聴診器を当ててきた。

聴診器の冷たい感触がして、鳥肌が立った。

胸の音を聴いている間、医者 of 男の様子は普
通だった。

でも、どこか医者 of 鼻息が荒くなっているよう
には感じた。

その後、服を元に戻して、身長と体重を測って
もらった。

そういったことは、医者ではない看護師がやる
のかと思っていたけど、すべてこの医者がやる
ようだった。

「あの、すべてお医者さんがやられるんです
か？看護師の方がやる項目もあるのかなと思
ってたんですけど」

私がそう言った。

「全部私がやります。もう今日の診察はすべて
終わったので、気にしなくて大丈夫ですよ」

医者 of 男がそう、にべもなく言った。

心電図や X 線検査も、別に技師がいるのでは
なく、すべてこの医者が 1 人でやるようだった。
その後、視力と聴力検査を行い、血液検査を
するために採血をしてもらった。

「じゃあ次は X 線だね。上半身裸になってもら

って、おっぱいをここに、むぎゅっと押し付けてください」

医者 of 男が言った。

私はまた全部上を脱ぐ必要は本当にあるのかと疑問に思ったけど、疑問の声を挟まないことにした。

胸を X 線を撮影する機械に押し付ける。

私は乳房を押し付けるようにした。

「はい、息を吸ってー。はい少しとめてー。はい撮影しまーす」

X 線の撮影が終わった。

私は服を着ようとしていると、医者が私の側にやってきた。

「ああ、もう服はそのまま。おっぱい丸出しでいいよ。どうせ、次は心電図で脱いでもらうから」

私は服を抱えて、胸を隠した状態で移動した。

「はい、このベットに仰向けになって寝てもらうんだけど、服は上も下も全部脱いでね」

医者 of 男がそう言った。

「全部？全部ですか？」

私が尋ねる。

「うん、そうだよ。上も下も全部脱いでもらって、すっぽんぽんになってもらう必要があるから」

「ちょっと待ってください。上はわかるんですけど、下も脱ぐ必要があるんですか？そんなの聞いたことがないんですけど」

「ああ、ごめんね。内の設備はかなり古くて、布が少しでもあると、しっかりと診断できないこともある旧式のもののなのよ。だから、悪いんだ